

講座の概要

第1回 畿内王権の坂東進出

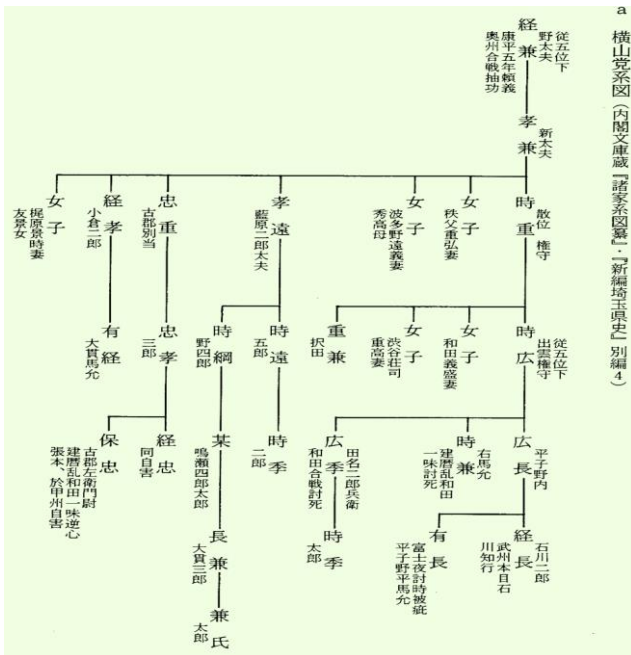
—相模の地名はいつから—

『日本書紀』天武4年(675)に「相模国高倉郡で三つ子誕生」の記事が見られますが、これが現在知られている神奈川県最古の地名記録です。

私たちの郷土「相模」原と境川の古名「高倉」川は、それぞれ飛鳥時代の地名を伝える文化遺産です。



図7-1-3 元禄12年相模野周辺36ヶ村入会絵図



第2回 鎌倉政権誕生から戦国の世

—地名を苗字とする武士たち—

平安時代の地名は、横山党系図に相原、小山、矢部、田名、小倉など名字の地としてみることが出来ます。

横山党は和田の乱に加わり衰退し、所領は大江(長井・毛利)氏に引き継がれますが、相原(粟飯原)氏の末裔は北条家に仕え、戦国時代には佐渡国の守護代本間氏(横山党)と共に活躍しています。

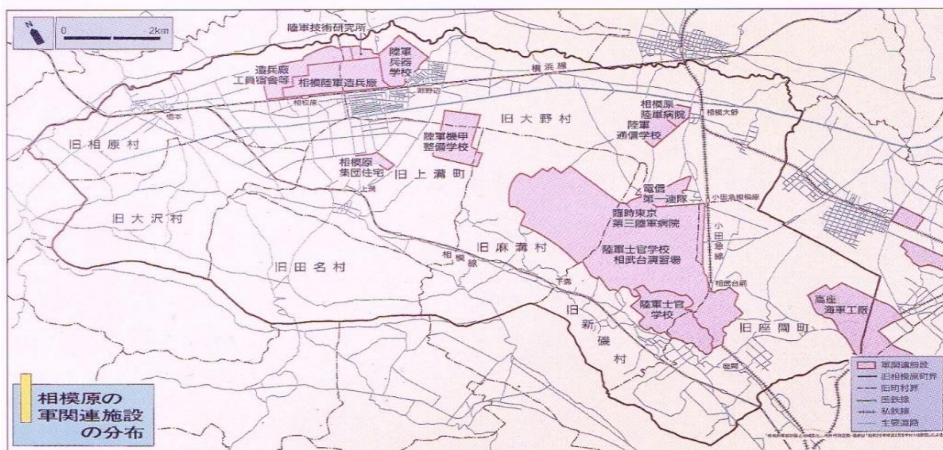
第3回

・消える地名とつくられる地名

新磯や麻溝、大沢は合成村名です。つくられた地名には大野などがあります。軍都にちなむ地名は、昭和天皇が士官学校に命名した相武台があります。双葉や青葉、麻溝台、弥栄などは戦後の開拓団にちなむ地名です。

・自然災害を警鐘する地名

大雨に伴う水害等を伝える地名には、ミソやくボ、ホリ、又マなどがあります。鹿沼や大沼、デリラクボなどの地名は巨人伝説の地名としても知られています。



[89-3] 相模原の軍関連施設の分布

資料:『相模原軍都計画と地域変化』による